

卓越大学院プログラム 事後評価結果

機関名	金沢大学	整理番号	1908
プログラム名称	ナノ精密医学・理工学卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	森本 章治	プログラムコーディネーター	華山 力成

卓越大学院プログラム委員会における評価

<p>〔総括評価〕</p> <p>S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。</p>
<p>〔コメント〕</p> <p>卓越した学位プログラム、「知のプロフェッショナル」を養成する体制等の構築については、学長のリーダーシップの下で大学院教育の飛躍的強化を最重要ミッションとして、教育の高度化、博士人材支援の強化を目指したダブルメジャー・ダブルメンター制度や俯瞰力・国際性・実践力等を育成するカリキュラムが整備され効果的に実行されている点、全学で取り組む分野横断型学位プログラムが構築されている点等は評価できる。</p> <p>修了者の成長については、異分野ラボローテーションを必修化し、学生の多様性もバランスが取れており、募集定員に対する充足率はほぼ毎年 100%を満たしつつ、学振特別研究員への定常的採用や修了年限内での学位取得等、卓越した人材が育っている。インターンシップ先を含む様々な企業にも就職しており、本プログラムの成果が社会的にも認められているものと評価できる。また、プログラム参加者は、参加の動機、将来の目標等を明確に語る事ができ、修了者としての NanoLSI アソシエイトの育成も進んでいる。今後は産業界、アカデミア等幅広い分野での NanoLSI アソシエイトの活躍が期待される。</p> <p>キャリアパスの構築については、マルチディシプリンの人材育成に向け、全研究科横断の基幹教育科目を新設している他、社会人との交流やインターンシップ等により、インターンシップ先に就職した学生や在学中にスタートアップを立ち上げた学生等、キャリアの多様化が進んでいることは評価できる。しかし、高度専門人材からマルチディシプリンの人材の育成に向けて GS 基盤／発展科目の教育などの施策の評価とそのフィードバックについての検討が求められる。</p> <p>大学院全体への波及効果及び事業の継続・発展については、本プログラムをフラッグシップとして、大学全体の博士学生支援・研究力強化の HaKaSe+を推進し、カリキュラムやキャリア開発・育成コンテンツマップ等が大学全体へ波及している。北陸地域での連携強化や国際ネットワークの拡充にも力を入れており、特にこの地域での卓越大学院拠点としての機能強化に期待したい。また、本プログラムの補助期間終了後の資金収入計画が現実性をもって検討されており、今後の継続への期待が持てるものの、多くの競争的資金にも依存している。これらの収入の確実化と支出とのバランス等、自走するための種々の対応が機能することによる運営基盤の確立が期待される。</p>